

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月9日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300641
法人名	有限会社 広優
事業所名	グループホーム 織月の郷
所在地	鹿児島県鹿屋市川西町2483番地 (電話) 0994-42-6667
自己評価作成日	平成25年10月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業務優先や職員都合の介護ではなくて、常に利用者様中心で、毎日をゆっくりと、のんびりと、利用者様お一人おひとりのペースに合わせた生活を心がけています。また、「一日一笑」と言う言葉を意識して、毎日楽しく笑って過せるように、努めています。そしてまた、利用者様の体調を把握した上で、外出を頻繁に行い(散歩や庭での食事・外食・ドライブ等)気分転換を図り、職員も利用者様も毎日明るく、元気に過ごしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年11月20日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域に根ざした住み慣れたところで「その人らしく1日を過ごせる」グループホームを目標に、理念が作られている。ホームでの生活の計画も日常のケアの中で会話を大切に利用者や面会にきた家族と面談する中でその人らしさを探し、スタッフがそれぞれの情報を話し合いプランにしてケアを実行している。
- ・地域の行事にも積極的に参加し、ホームの行事に地域住民を招待し、利用者や家族と楽しんでいる。
- ・運営推進会議は定期的開催し、ホームの現況報告やサービス評価の報告、参加者からの提案や意見をもらいサービスの質向上に取り組んでいる。
- ・外出については、住み慣れた地域に帰り、知り合いと出会ったり墓参りやドライブで楽しみ、馴染みの人間関係がとぎれないようにしている。
- ・災害対策は、居室からすぐ外に出られるように段差もほとんどなく、地域住民の協力もある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は玄関・職員用トイレに掲示し、いつでも確認できるようにしてあり、ミーティング時は皆で復唱している。また、パンフレットやホーム便りにも明記してある。	理念を玄関等に掲示し、ミーティング時に唱和することで確認しながらケアに当たっている。また、家族にもホーム便りに理念を掲載し、周知を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の運動会を見学したり、夏祭りは子供会の協力で、かき氷作りを手伝ってもらった。また、12月は町内の子供会と一緒に餅つき大会を計画している。	町内会に加入し、地域の運動会に参加したりしている。ホームの夏祭りでは、地域住民や子供会に運営の手伝いもしてもらっている。また、中学生の福祉体験学習も受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域住民の方に、開設10周年のお知らせと記念品を配布し、認知症への理解を深めた。認知症キャラバンメイトの学習会に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、家族、利用者、消防分団、学校校長、行政関係等の幅広い参加を得て、2ヶ月に一回開催している。利用者の実績や取り組みを報告して、いろいろな情報や意見をもらい、ホームの運営サービスの向上に活かしている。	会議は、ホームの現状報告や参加者から地域の幅広い情報や意見をもらって開催している。防災無線取り付けの申請をする等、意見をサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告書等速やかに報告したり、入居者待機状況の相談や分からない事柄等、連絡し合っている。相談しやすい窓口となっている。	市の担当者や介護保険の担当者に報告や相談を密に行っており、市からのアンケート調査に協力する等、細やかに連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームの方針として、拘束のないケアに取り組んでおり、日中は鍵はせずに、職員間の連携で、安全で自由な生活を楽しめるように支援している。また、虐待や拘束の研修会に参加し、周知している。	日中は玄関の施錠はせず、職員の目配りと外出希望の利用者と一緒に散歩する等、拘束をしないケアを実施している。ベッドガードを一時的に使用する場合など、マニュアルに従ってケアを行い、市及び運営推進会議に報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に積極的に参加し、常に利用者ご本人の意向や満足度を第一に考えている。また、スタッフがストレスを抱えないように、心のケアにも配慮しながら、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する研修会にもスタッフ交互に参加し、ミーティングで全スタッフに報告し共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要説明書等は事前に十分説明を行い、理解納得して頂いたのち署名捺印をしております。また、退所時も十分な説明を心がけ理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	外部に第三者委員会を定めており、玄関に掲示しているが、意見や要望はあまり聞かれない。家族はその都度、相談や疑問等の意見を管理者やスタッフに直接話されている。出された要望や意見は職員間で話し合い、運営に反映している。	利用者とは日常的に懇談し思いを聞いている。家族とは、家族会や運営推進会議・面会および夏祭りや誕生会、通院同行時等に、家族の要望等を把握するようにしている。要望や意見は、職員で話し合って対応するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	最低年1回は代表者とスタッフの個人面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	代表者及び管理者は、連絡ノートや申し送りノートの利用及び毎月の職員会議で意見等を聞く機会を設けている。また、日頃の個別相談や個人面談等で意見の把握に努め、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人員基準を満たした上でスタッフの状況に合わせ、臨機応変に勤務交代や休日が希望に添えて、働きやすい職場になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>業務に支障のない範囲で、研修等に参加させてもらい、個々の意識改革や質の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの交流会や研修に参加して、困難事例や分からない事など、迷った事があったら連絡を取り合い、他の事業所の状況等を教えてもらっている。常に交友関係を深め、情報交換しながらケアの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆったりとした時間の中で、じっくりと傾聴し、ご本人の思いや気持ちを受容できるように努めている。また、決して焦らずに、時間をかけて信頼関係を深めていけるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、方針を伝え家族の理解と共感がもらえるよう努め、また、ご家族がいつでも気軽に相談してもらえるように、相談者のペースに合わせた傾聴を心がけ努めている。一緒にお茶を飲んで、くつろげるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントを行い、可能な限り様々な選択肢を提案し、ご本人・ご家族にとって最良なサービスが提供できるよう努めている。また、何か困っていることはないか、何が必要かなど情報交換している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合って生活するという関係作りに努め、どんな時でも「ありがとう」と感謝の気持ちを忘れないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所を心から歓迎し、ご本人を支えていく為の協力関係を大切にしている。家族の協力は重要であり、双方で生活支援することが大切である事を伝え、家族への感謝も忘れずに支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それぞれの要望や意向を確認し、可能な限り叶えている。要望のいえない人に対しては、家族と話し合ったりいきたい所を探している。面会時は居室でゆっくりくつろげるように配慮している。	本人の意向に沿って、墓参りや自宅訪問を実施している。また、自宅の自治会から行事毎に来訪がある。家族等の面会の際は、居室でゆっくり会話できるように努め、これまでの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分からはなかなか仲間に入れない利用者もいる為、気の合う合わないの関係を把握し、仲介や声かけの配慮に努め支援している。食事の席も必要に応じ替えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り交流を持ち、末永く関わって行きたい為、行事への参加を呼びかけたり、入院や他の施設に移られた方への面会も心がけている。今でも時々退所された家族が手作りの差し入れを届けてくださることがあり、ありがたい。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意思を大切に、おひとりおひとりを尊重し、日常生活の中の表情や会話で、思いを汲み取り、本人の意向の把握に努めている。	1日に1回は笑がでるように働きかけるなど、気持ちをほぐし、会話や仕草、表情等から本人の意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族との面談時に、必要以上に質問する事は避け、生活暦や暮らし方などの情報収集を行い、これまでの経過の把握に努めている。(若い頃の仕事や家族の事など)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事摂取量、排泄状況などを把握し、体調の変化など必ず申し送り、情報を共有しながら把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わりの中で、態度や顔の表情などから気持ちを汲み取り、毎月のミーティング時に、利用者個人の変化や思いを全スタッフで共有してモニタリングや介護計画に反映している。	事前に把握した本人の意向や家族の要望等を含めて職員会議で検討し、介護計画を作成している。介護記録を基にモニタリングを実施し、職員会議で利用者全員のモニタリングを検討し、毎月またはその都度見直しをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録は特別なことがあったら、細かく記録するようにしているが、普段の記録は簡潔にし、利用者とのふれあいを多く持てる様に心がけている。連絡帳や申し送りノートも活用し、日常生活の様子を観察し、情報を得て、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じて受診は、職員が代行及び薬取りなども支援している。また、入退院また自宅への送迎も可能にしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事や展示会など学校や学習センターに出かけ楽しまれている。踊りや三味線のボランティアを受け入れ、豊かな暮らしを提供できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が信頼しているかかりつけ医の受診を支援している。体調不良時は職員も家族と一緒に同行し、ホームでの生活状況等を医師に説明し、病状の把握に努めている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医への受診を、家族の協力を得て支援している。また、職員がホームでの情報提供のため同行し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	看護職員に関わらず、全スタッフで健康状態の把握と、健康管理など看護師に相談・報告しながら行っている。必要に応じ受診の際はスタッフが同行し、かかりつけ医との連携を心がけ、協力をもらえる体制を作っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院中も職員による見舞いを行うと共に、病院の相談委員と情報交換を行っている。回復状況を詳しく聞く事や、退院時の指導を受ける事で安心して退院できるような環境作りを提供している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	終末期について入所時に本人・家族と十分に話し合い方向性を確認している。看取りや重度化ケアに関する指針を定め同意書を頂いている。本人の状況をみながら、職員全体で話し合い、医療機関の協力をもらいながら、常に最良の対応を心がけている。	重度化や看取りについて入居時に説明を行い、同意書をもらっている。重度化等の場合は家族の意向に沿って、かかりつけ医の協力を得て、段階的に職員間で話し合いながら対応している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	救命救急の講習会等に参加し、常日頃から緊急時に対応できるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署や地域の消防分団の協力をもらい年2回の火災訓練を行っている。非常食についても水や乾燥麺・缶詰などの確保を行っている。</p>	<p>消防分団や地域住民の参加を得て、夜間想定を含め年2回の火災避難訓練を実施している。職員への事前通知なしの訓練にも取り組んでいる。また、非常用の水や食料の備蓄は確保している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する場合は必ず、ノックや声かけを行い許可を得ている。また、トイレ時もプライバシーを損なわないように、必要以上の見守りは行わず、外で待機するようにしている。接遇研修を行い振り返っている。	本人への呼びかけ方は、入居時に本人及び家族の了解を得て、ていねいに対応している。職員の言葉かけについては、人格を尊重して支援し、トイレ誘導時や入室時等は配慮している。連絡ノートで全体の共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	かねてよりコミュニケーションをとっており、何でも話せる雰囲気を作っている。自ら口に出せない利用者には、幾つかの選択肢を用意し、顔の表情を観察しながら、本人の希望を支援している。また、時間をかけて、自己決定できるよう関わりを持って配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出好きな利用者の為にドライブをしたり、気の済むまで散歩に付き合ったりしている。その人のペースや体調、気分に合わせて、毎日のんびり暮らしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣介助の際は、どれが良いか本人の希望を聞いている。お化粧をされる方は、「綺麗だね」などと、声かけを欠かさないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや盛り付け・配膳等、本人の能力に応じた仕事を職員と共に行っている。また、食事中は、テレビを消して音楽をBGMに、会話を楽しんでいる。季節感や食欲が増すよう調理や盛り付けを工夫している。	菜園の利用で季節感のある食事を提供し、誕生日には本人の希望の料理を用意している。外食や弁当持参での外出、中庭でのかまどで炊飯をして食事会をしたり、食べる楽しみに重点を置いた取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の少ない利用者には、好みの果物やジュース等夏は水分の多いスイカを提供している。食事摂取の少ない場合は、バナナやおにぎり、パンなど必要に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず声かけや促しの他、自分で出来ない方の介助や義歯洗浄、夜はポリデント使用し消毒等行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンに応じ、声かけや介助を行っている。排泄の失敗があっても、さりげなくシャワーや清拭を行い、自尊心を傷つけないよう配慮している。	トイレ誘導時はさり気なく行い本人が嫌がれば無理強いせず、失敗があればシャワー等に対応する方針である。オムツから綿パンツのみになる利用者もあり、本人の意向を尊重しながら対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い芋を使った手作りのおやつや野菜を多く摂取できるような献立作りを行っている。また、室内外の散歩で運動も心がけている。排便チェックを活用し、把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴可能なので、本人の都合でいつでも入浴できる。入浴を嫌がられる方には、時間をかけてゆっくり接するよう努め待つケアで成功に繋がっている。温泉へ出かけたこともあり、今後も入浴を楽しめるよう支援していきたい。	入浴は好きな時間に毎日でもできる。友達と入ったり、個浴など思い思いに楽しんでいる。職員は、見守りながら、必要な介助を行っている。利用者が入浴を拒否しても、無理強いせず様子を見て支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床や起床を無理強いすることなく、基本的に本人の意思に添ったケアを行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の説明書などは、個々ファイルに添付してありスタッフがいつでも確認できるようにしている。服薬の変化に注意して、連絡帳や申し送りノートで情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願いや相談をする事で張り切って過される。台所や洗濯物の役割をお願いし、張り合いや喜びを見出せている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施錠はしていないので、いつでも外出可能である。その際必ずスタッフが付き添っている。また、季節ごとの花見やドライブ、地元の学校の運動会や文化祭へも出かけている。家族の協力も得られ、外出や外食に出かけられている。	リビングから出られる広い芝生の中庭で、散歩や外気浴を日常的に行っている。その日の天気や体調等によりドライブを頻回に実施し、地域の行事や季節の行事、外食等できるだけ外出の機会を多くするように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	100円ショップに出かけ、お気に入りを購入された事もある。基本にお金の管理が難しく、殆どホーム側で預かり、必要な時にお渡ししている。買い物が楽しくなるようもっと支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族等への電話の仲介や自ら会話できるように支援している。手紙を書かれる方はいらっしゃらない。年賀状は顔写真と本人のコメントを書いて出している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、テレビ、堀コタツ、ソファ、籐椅子が備えてあり、空気清浄機や空調等で快適に過ごせるようにしている。めだかを飼育している。いつでも居心地良く、くつろげる様配慮している。	中庭に面したリビングは、天井が高く広々として明るい。空調設備が整っており、快適に過ごせる空間となっている。堀コタツやソファなどが設置されており、好みの場所でくつろげるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	籐いすやソファ、堀コタツ等、思い思いの場所でくつろいでおられる。仲良しの利用者様同士が談笑出来る場所となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物を持ち込んで、自分らしい部屋作りをしてもらっている。過しやすい雰囲気になるように家族にも協力してもらっている。	ベッドや洗面台・押し入れが備えられており、加湿器やコタツなどを持ち込んだり、ぬいぐるみや写真等を飾り、それぞれが落ち着いて過ごせるようにされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は整理整頓に努め、安全かつ自由に行動できるように、常に気配りされている。室内の温度調整や換気にも気をつけている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない